

東京都公立大学法人の第三期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価(案)について

(1) 項目別評価

評定	評語 (目標の達成状況)	中期目標期間 見込	
		項目数	割合
1	極めて良好	3	9%
2	良好	9	26%
3	概ね良好	23	66%
4	やや不十分	0	0%
5	組織、業務等に見直しが必要	0	0%
項目数計		35	100%

第三期中期目標期間

令和 4年度	令和 3年度	令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度	
		項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
		1	3%	3	9%	3	9%	2	6%
		14	40%	11	31%	10	29%	11	31%
		20	57%	21	60%	22	63%	21	60%
		0	0%	0	0%	0	0%	1	3%
		0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
		35	100%	35	100%	35	100%	35	100%

見込み

(2) 全体評価

中期目標達成に向けて、着実な業務の達成状況にある。

「優れた点・特色ある点」

- 東京都立大学：教学IRシステムを用いて、データに基づく教育改善を積極的に推進
- 東京都立産業技術大学院大学：ロールモデル集等を活用した積極的な広報の展開により、安定的に志願者を確保
- 東京都立産業技術高等専門学校：職業教育プログラムの提供、本科のコース再編など、教育内容を充実

「更なる充実が期待される点」

- 2大学1高専：卒業生・修了生同士の交流の促進や愛校心の醸成を図るための取組を拡充

「改善すべき点」

- 東京都立大学：都と連携した共同研究やプロジェクト創設に向けた取組の強化
- 東京都立大学：コロナ禍の影響を受けた学生の海外派遣や外国人留学生の受入れに関する取組の見直し

(3) 主な業務実績・評価(1/3)

東京都立大学

○教学IR※システムを活用した教育改善

- ・入試区分ごとの入学後の成績分布を分析し、入試制度を見直し

⇒今後もデータに基づく教育改革の推進が見込まれる点を評価

※教学Institutional Researchの略。大学の計画策定、意思決定等を支援するための情報を提供する目的で、教育・学修に関するデータを対象として調査・分析を行うこと。

○分野横断、学部横断の教育プログラムの充実

- ・大学院で文・理・医療の3分野から参加できる超高齢社会学際プログラムを令和3年度から開講
- ・学部横断のデータサイエンス副専攻の開講に向けた準備や、多様な科目を文理の枠を超えて履修できる仕組みを全学共通教育プログラムに導入するための準備を着実に遂行

⇒多様な学修機会の更なる充実が見込まれる点を評価

○都との連携事業

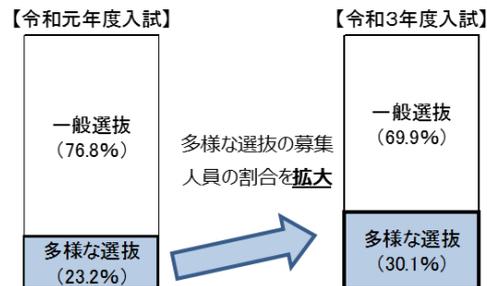
- ・都連携事業の件数が大幅に増加しているが、学際的な大型プロジェクト創設の実績は順調とは言い難い。

⇒都と連携した共同研究やプロジェクトは、研究の活性化や都政への貢献につながるため、更なる取組の強化を望む。

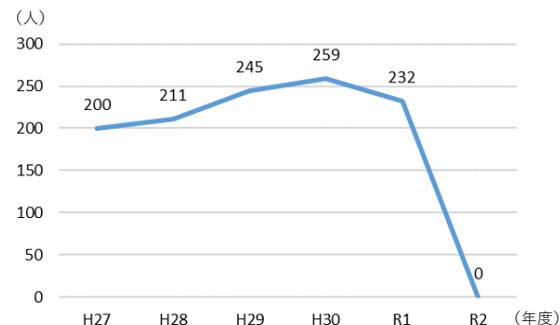
○学生の海外派遣や外国人留学生の受入れ拡大

- ・コロナ禍の影響により、取組の変更を余儀なくされている。

⇒残りの計画期間におけるグローバル化の推進に向けた工夫を望む。



▲教学IRを活用した募集定員の見直し



▲各年度の海外派遣学生数

(3) 主な業務実績・評価(2/3)

東京都立産業技術大学院大学

○専門職大学院にふさわしい学生の確保

- ・ ロールモデル集等による教育成果の効果的な発信や、SNS等の多様な媒体を積極的に活用した広報活動の展開により、定員を超える志願者を集め、高度専門職業人としての資質を有する学生を確保

(志願倍率 H28年度(4月入学)0.94倍 → R3年度(4月入学) 1.56倍)

⇒ 社会人のニーズに合った多様な手段を活用し、着実な志願者の確保が見込まれる点を評価



▲ロールモデル集

東京都立産業技術高等専門学校

○教育プログラムの充実・見直し

- ・ 情報セキュリティ技術者と航空技術者の2つの職業教育プログラムについて、企業と連携したインターンシップや、専攻科向けプログラムを開始するなど、教育内容を充実
- ・ 本科のコース再編、医工連携教育・研究プロジェクトの開設に向けて準備を推進

⇒ 教育内容を見直し、社会や産業界のニーズに応える教育の提供・充実が見込まれる点を評価

本科コース再編 (令和4~)

生産システム
工学



AIスマート
工学

電子情報
工学



情報システム
工学

(3) 主な業務実績・評価(3/3)

法人運営全般

○卒業生・修了生との連携強化

- ・オンライン形式によるホームカミング日の開催や、同窓会との連携強化など、卒業生・修了生が足を運びやすい大学・高専の雰囲気づくりに向けた2大学1高専各校の取組を強化
⇒卒業生・修了生同士の交流の促進や愛校心の醸成を図るための取組の更なる拡充を期待

(4) 中期目標の達成に向けた課題・法人への要望等

○ポストコロナを見据えた取組

- ・コロナ禍に対応する中で、オンラインツールの活用によりこれまでにない事業効果が得られた取組もある。コロナ禍の収束後も、オンラインと対面を組み合わせた効果的・効率的な法人運営の推進を期待

○認知度・プレゼンスの向上

- ・令和2年度に実施した大学・法人の名称変更も生かしながら、2大学1高専の活躍ぶりを積極的にアピールするなど、認知度・プレゼンスの更なる向上を図ることを期待